

平成 26 年度第 2 回遠野市総合計画審議会 — 議事概要 —

(開催要領)

- 1 日時 平成 26 年 7 月 28 日 (木) 午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分
- 2 場所 遠野市役所とびあ庁舎 大会議室
- 3 出席者

(1) 委員

会長	臼井 悦男	遠野市社会福祉協議会会長
副会長	荒田 良治	一般社団法人遠野市観光協会会長
委員	井手 純	遠野市消防団団長
委員	千葉 和	NPO法人遠野エコネット代表
委員	千葉 純子	一般社団法人遠野市医師会
委員	菊地セツ子	遠野市食生活改善推進員団体連絡協議会会長
委員	河野 好宣	遠野市体育協会会長
委員	菊池 一晃	遠野市民生児童委員協議会会長
委員	松田 希実	遠野市わらすっこ支援委員会副委員長
委員	菊池 一勇	花巻農業協同組合理事
委員	佐々木弘志	遠野市商工会会長
委員	三浦 一	一般社団法人遠野青年会議所理事長
委員	菊池 塔寿	遠野市校長会会長
委員	佐々木國允	遠野市郷土芸能協議会会長
委員	菅沼 隆子	一般財団法人遠野市教育文化振興財団副理事長
委員	内館 充幸	遠野市区長連絡協議会会長
委員	海老 糸子	遠野市地域婦人団体協議会会長
委員	佐々木栄洋	公募
委員	鳥屋部恵児	公募
委員	菊池 広樹	公募
委員	高宏 美鈴	公募
代理	工藤 和信	遠野市PTA連合会副会長
代理	八重樫健一	岩手県県南広域振興局経営企画部企画推進課主査

(2) 遠野市

本田 敏秋	市長
藤澤 俊明	教育長
菊池 文正	経営企画部長
飛内 雅之	経営企画部まちづくり再生担当部長
菊池 保夫	総務部長
荻野 優	健康福祉部長
菊池 永菜	健康福祉部特命部長
鈴木 惣喜	産業振興部長
大里 政純	農林畜産部長
遊田 啓悦	環境整備部長
小向 孝子	遠野文化研究センター一部長
古川 憲	市民センター所長
多田 博子	宮守総合支所長
谷地 孝敏	消防長
菊池 幸市	子育て総合支援センター所長
佐藤 浩一	企画・秘書広報担当課長

鈴木 英呂 財政担当課長
千田 孝喜 まちづくり再生担当課長
澤村 一行 管理情報担当課長

- 4 欠席者
委員 濱田平八郎 遠野地方森林組合代表理事組合長
委員 菊池 浩彦 公募

(議事次第)

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 会長あいさつ
- 4 出席者報告及び日程説明
- 5 報告
(1) 遠野市総合計画等について
- 6 協議
(1) 遠野市総合計画後期基本計画まちづくり指標平成 25 年度実績について
(2) 遠野市新エネルギービジョンの策定について
- 7 その他
- 8 閉会

(配付資料)

- 1 次第、名簿等
- 2 遠野市総合計画後期基本計画まちづくり指標平成 25 年度実績概要 (資料 N01)
- 3 遠野市総合計画後期基本計画まちづくり指標平成 25 年度実績一覧 (資料 N01-2)
- 4 遠野市新エネルギービジョン策定の進捗状況について (資料 N02)

(議事概要)

1 開会

○菊池文正 経営企画部長

本日は、お忙しいところを遠野市総合計画審議会に御出席頂きまして、ありがとうございます。

ただ今から、平成 26 年度第 2 回遠野市総合計画審議会を開会いたします。私は、経営企画部長の菊池と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

はじめに遠野市長からご挨拶を申し上げます。

2 市長あいさつ

○本田敏秋 遠野市長

皆さん大変ご苦労様です。平成 27 年度の県予算に市の課題を様々反映させてほしいとの思いから、8 月 1 日には、遠野市市議会と 20 項目の要望を行うこととしております。

国でも、平成 27 年度の政府の概算要求の基準も決まり、27 年度に向けた様々な動きが、我々市町村を取り巻いています。

そしてまた、非常にショッキングな形で 2040 年問題が報道されています。団塊の世代が後期高齢者の世代に突入する 2025 年問題。さらには、消滅市町村というショッキングな言葉の中で、2040 年問題が新聞等で報道され議論もされています。

そういった中で、遠野市では、これからの遠野の将来を見据えた様々なビジョンや計画が、どのような形で市民の皆さまのために実施されているのかを、委員の皆さまに検証をお願いしております。

昨日、わらすっこまつりとスポーツ流鏑馬、リバーサイドまつりが、柏木平レイクリゾートの大蛇行の自然豊かな、まさに緑だらけと言っても良い環境の中で、多くの関係者、ボランティアの皆さんの支えにより、開催することができました。

6 千名を超える皆さまが、夏休みの良き思い出として楽しく過ごしておりました。その中には、陸前高田、大船渡、釜石、大槌といった被災地の方からも多くの方が来られていたとの報告がありました。そして、スポーツ流鏑馬には、全国から 32 人の方々、遠くは北海道、大阪からも集まり、まさに人馬一体の見事な技を流鏑馬といった中において披露していただき、多くの歓声が響き亘っていました。リバーサイドまつりでは、魚の掴み取りなど、その場所ならではの環境を利用した催しが企画され、大変な賑わいがあったということでした。これもまた、夏休みという中における遠野の元気の一つの姿になったのではないかと感じているところで

私の手元に、先般、遠野緑峰高校の生徒さん方からいただいた名刺があります。これは、これまで、捨てていたホップの蔓を活用するため、何度も何度もチャレンジし、このような和紙として仕上げることができたとの報告がありました。名刺には、これまで捨てていた物を製品にした旨が印字されています。ぜひ、この名刺を使ってくださいとのことでしたので、早速、上京した際に、この名刺を使いました。これは少し黒い色をしていますが、ここに書かれているとおりの、ホップの蔓でできた名刺ですと言ったならば、生徒さん達の狙通りに話が弾みました。遠野のホップの話の中から会話が弾み、緑峰高校の生徒の力には、やられたなと非常に小気味の良い感触を得たことを委員の皆さまに御報告申し上げたいと思います。

また、平成 28 年の国体開催に向けてのカウントダウンが既に始まっておりますが、間もなく、人工芝も完成します。当市の財政上、8 億円という事業費は大変ですが、平成 28 年の国体では、当市はスポーツ少年サッカーの主会場であり、成功させなければなりません。遠野高校は、20 回以上も公立高校として全国の正月サッカーに進み、国立のピッチにも立った大変な伝統を持っています。そういった中、サッカーを通じながら元気な情報を発信することは、大事な事だと思っております。天然芝 2 面、人工芝 1 面の工事を進めていますが、間もなく人工芝は、完成する予定になっております。

そういった中で、遠野中学校のサッカー部が、中総体 2 連覇というプレゼントを、私ども市民の皆さまに与えてくれました。この子供たちが、今、中学校 2 年、3 年となれば、少年サッカーの主力選手になるということが見えてきましたので、これも嬉しい出来事の一つでありま

す。先般、私のところを尋ね、大変大きな声で堂々とした優勝報告がありましたが、その中には、サッカー一部だけではなく、陸上競技でも東北大会、全国大会へ駒を進める生徒が4人いたということも大変嬉しいニュースでした。

学校統合は、大きな市政課題でありましたが、多くの皆さまのご協力とご理解を頂きながら、3校体制でスタートすることができました。子供たちがこのような活躍を見せてくれたのも、学校再編の一つ成果とも受け取ることができるわけでもあります。

現在の総合計画は、平成27年度が最終年度となっており、平成28年度を初年度とする前期5カ年、そして後期5カ年といった構想を、あるいは実施計画をまとめる作業に直ぐに入らなければならないかと思っておりますので、今日報告する案件等につきましては、そのような認識の元に、委員の皆さまにお聞き取り頂き、忌憚のないご意見とご提言、またご指摘をお願いいたしまして、挨拶に代えさせて頂きます。よろしくお願いいたします。

○菊池文正 経営企画部長

続きまして、臼井会長よりご挨拶をお願いいたします。

3 会長あいさつ

○臼井悦男 会長

皆さまご苦勞様です。7月22日の岩手日報紙上に、東洋経済新報社が発表した第21回住みよさランキングが掲載されました。遠野市は県内4位で、全国では318位と紹介されました。その中で、医療や介護、保育環境等からテーマになっている安心度については、県内で第1位、全国でも55位と随分良い位置にいますと感じています。ある会社が比較したランキングに、一喜一憂することはないかもしれませんが、遠野市の住みよさが評価され大変嬉しく感じたところです。市民の皆さま、そして子供達、孫達が地域活動を担いながら元気よく住むことができる町というものを、一緒に目指して行かなければならないと新聞を見ながら感じたところです。

本日は、報告1件と協議事項2件のご審議を頂きます。提案されました内容を意義のあるものにしかりと仕上げていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

4 出席者報告及び日程説明

○菊池文正 経営企画部長

本日の委員の皆さまの出欠状況についてご報告申し上げます。出席委員です。

遠野市社会福祉協議会会長 臼井会長

遠野市消防団団長 井手委員

NPO法人遠野エコネット代表 千葉委員

遠野市医師会会長 千葉委員

遠野市食生活改善推進員団体連絡協議会会長 菊地委員

遠野市体育協会会長 河野委員

遠野市民生児童委員協議会会長 菊池委員

遠野市わらすっこ支援委員会副委員長 松田委員

過日の花巻農業協同組合の役員改選によりまして、新たに委員となられました

花巻農業協同組合理事 菊池委員

遠野市観光協会会長 荒田副会長

遠野商工会会長 佐々木委員

遠野青年会議所理事長 三浦委員

遠野市校長会会長 菊池委員

遠野市PTA連合会会長 熊谷委員 本日は、代理の副会長工藤和信様

遠野市郷土芸能協議会会長 佐々木委員

遠野市教育文化振興財団副理事長 菅沼委員

遠野市区長連絡協議会会長 内館委員

遠野市地域婦人団体協議会会長 海老委員

岩手県南広域振興局経営企画部長 田村委員 本日は、代理の八重樫企画推進課主査
公募による委員の皆さまです
佐々木委員
鳥屋部委員
菊池委員
高宏委員

以上、23名の委員の方々にご出席頂いております。

なお、遠野地方森林組合の濱田委員、公募による菊池委員は都合により本日は欠席となっております。

続きまして、市の出席者につきましては、会議資料の2ページに記載していますので、紹介は省略させていただきます。

本日の配布資料について確認をお願いします。

- 1 次第、名簿等の資料
- 2 遠野市総合計画後期基本計画まちづくり指標平成25年度実績概要（資料N01）
- 3 遠野市総合計画後期基本計画まちづくり指標平成25年度実績一覧（資料N01-2）
- 4 遠野市新エネルギービジョン策定の進捗状況について（資料N02）

以上が本日の資料となっています。不足はございませんでしょうか。

それでは、本日の会議日程についてご説明申し上げます。

この後、報告事項といたしまして、遠野市総合計画について3分程度でご説明、ご報告申し上げます。その後、本日の協議事項に入らせて頂きます。

1点目、まちづくり指標平成25年度の実績についてでございます。説明及び質疑については、およそ60分程度想定をしております。

2点目、遠野市新エネルギービジョンの策定については、説明、質疑を含めまして30分程度ということで想定をしております。

終了時間は、およそ午後3時半頃予定しております。

以上で、出席者報告、日程説明については以上となっております。

それでは、これからの5の報告事項については、進行を臼井会長にお願いをいたしたいと思っております。よろしく申し上げます。

5 報告

○臼井悦男 会長

次第の5、報告に入ります。遠野市総合計画等について説明をお願いします。

○佐藤浩一 企画・秘書広報担当課長

2点ほど報告いたします。

1点目ですが、前回の5月15日に開催した第1回総合計画審議会において、次期総合計画の策定方針等を説明いたしました。その中で、今後、基礎データの収集分析の他、新たな住民ニーズの把握、まちづくりの進行管理等の新たな手法等を把握した上で、総合計画の策定に取り組むことが大切であることから、指定型プロポーザルを行い、計画策定業務を支援する業者を選定する旨の説明をいたしました。業者を選定いたしますので、ご報告します。

業者名は、株式会社パスコ盛岡支店で、盛岡市茶畑にある会社です。実績等につきましては、平成25年度に宮城県登米市、平成23年埼玉県比企郡ときがわ町等で総合計画を策定しています。なお、平成11年には、遠野市でも総合計画を策定した実績等があります。

続きまして2点目です。同じく5月の総合計画審議会において、質問がありました件です。次期総合計画策定にあたり、市長と語ろう会等でご意見を伺うほか、メールやホームページ上からも広く意見を伺うこととして説明した際、前回の総合計画策定時にはどれだけの意見が寄せられたかという質問がありました。それについてお答えします。

平成 23 年度からの後期基本計画においては、メールでの意見徴収は行っておりません。ただし、平成 21 年度には、市内 9 か所において市長と語ろう会を開催しております。その部分の意見を反映しております。市長と語ろう会には 236 人が参加し、138 件の意見がありました。

平成 18 年度の前期基本計画におきましても同様であります。市長と語ろう会は、11 地区で 281 人が参加し、計画策定後にも 11 地区で 518 人の参加がありました。市長と語ろう会での意見聴取という形になっております。以上 2 点の報告です。よろしくお願いいたします。

○臼井悦男 会長

はい、ありがとうございました。

この報告事項について、何か皆さんからご質問、ご意見ありませんか。

無いようですので、報告事項は終了いたしまして、6 の協議に入ります。

6 協議

○臼井悦男 会長

それでは協議の（1）まちづくり指標の平成 25 年度実績について、説明をお願いします。

○佐藤浩一 企画・秘書広報担当課長

* 会議資料を事前送付していたが、以下の点を修正し配付している旨を説明。

No.58 児童館・児童クラブ年間利用延べ人数 平成 25 年度実績を修正

No.107 市民センター施設の利用件数 25 年度実績を修正

No.108 市民センター施設の利用者数 25 年度実績を修正

No.131 各委員、協議会の女性参画率 25 年度実績を修正

* 前回の審議会で指摘があった 2 点を踏まえて資料を作成した旨を説明。

1 昨年度は、該当年度のみを記載していたが、今回は後期 5 カ年の平成 23 年度から 27 年度までの年度別目標と実績を記載。

2 昨年度は、目標値が設定されていない指標を含め全 141 指標を対象としていたが、今回は、目標値が設定されていない指標は除き（N06、101）139 指標を対象としている。

（別添資料により説明、11 分）

・まちづくり指標平成 25 年度実績概要（資料 N01）

・まちづくり指標平成 25 年度実績一覧（資料 N01-2）

* 指標 N035 の実績値は、暫定値であること、指標 N057 の実績値は、平成 24 年度実績であることを報告。

○臼井悦男 会長

これから皆さんからご質問やご意見を伺って参りたいと思います。資料に記載されており、8 月 26 日には議員の皆さんに説明することになっています。去年は、議員の皆さんに報告した後で、固まった内容でしたので意見が出にくかったのですが、今回は 1 ヶ月前に開催して頂き、十分皆さんの意見を取り入れて修正すべきところは修正すると伺っております。

まずは、資料 No.1 の 25 年度実績概要について、ご質問等ありましたらお願いします。

○佐々木栄洋 委員

社会情勢の変化などもある中、概ね達成が 90%以上で判断していますが、それ自体はよいことだと思いますが、このことに対するご意見をお願いします。

○佐藤浩一 企画・秘書広報担当課長

確かに 90%以上というのは高い設定になっているかもしれませんが、できるだけ高い数値で指標目標を達成していきたいということで設定しておりましたので、5 年間はこの数値で進め

ていきたいと考えています。

○佐々木栄洋 委員

あと、後期5年間の指標で、これまでに新たに追加した方がよいとの意見があったのかどうか、また、あった場合は、どのように考えているのかお聞きしたいです。

○佐藤浩一 企画・秘書広報担当課長

一部計画値の修正等を行ったことはありますが、指標に関しては、廃止等はしておりませんので、指標とすれば141指標はそのままです。

なお、先程説明した通り、該当年度に指標値が設定されていない場合は、今回から外していました。前回までは、指標値がない部分に関しましては必然的に達成という扱いにしておりましたが、それはおかしいとのご指摘があり、指標は全部で141指標ありますが、今回は139指標という形で捉えています。

○佐々木栄洋 委員

指標は、5年間はまだ見直すことはないということでしょうか。

○菊池文正 経営企画部長

そういうことになります。計画を策定した時点で決めた指標で、年度ごとに実績値をお示しています。

佐々木委員のご指摘の通り、設定した時点での指標そのものが合うのかということは、内部でも議論をしております。今日の会議でも、話がありましたが、頑なに固定して、かけ離れた数値に対して実績値を出すことはいかがなものかというのは内部でもありまして、大きな課題でもあります。次の28年からの総合計画については、もちろん修正してまいります。残された26、27年度の2年間についても、修正すべきところは修正していかなければならないだろうと考えます。

○臼井悦男 会長

ありがとうございました。個別の内容の方が、もしかしたら話しやすいのかもしれないので、資料No.1-2を含めて、ご質問ご意見をお願いします。

項目毎に進めれば良いかもしれませんが、一括で進めてまいります。

○河野好宣 委員

10番の都市公園の整備に関してです。成果、評価の部分では、都市公園の整備計画は当面なく稲荷下第二地区の部分では公園整備を進めていくとあります。前から言われていますが、町場の部分は比較的少ないですが、元気わらすっこセンターの近くは、子供たちが集まって遊んだり、利用されたりしているので整備が必要になってくると思っておりますが、どのようにお考えでしょうか。

○菊池幸市 子育て総合支援センター所長

西館の所もですが、交差点から遠野小学校までの部分、あるいは大日山の部分も合わせて子育てゾーンという見方をして、公園を整備する場合には、どういう形が望ましいかを、子育てするなら遠野推進本部で検討することになっております。具体的なプランにつきましては、まだ決めてはおりません。どちらかという屋外で遊ぶ場所は数多くありますが、屋内で遊ぶには、子育て支援センターは狭いという感じがあります。幼児の部分は整備されておりますが、若干大きめの子供も遊べるような所を整備していくことも視野に入れて、子育てゾーンという広がりの中で、検討しているところです。

○河野好宣 委員

検討されているということで、評価したいと思えます。

この部分は、緊急時の避難場所的な捉え方も必要になってくると思えますので、ぜひ、前向

きな形で取り組みを進めてほしいと思います。

○高宏美鈴 委員

115の博物館の入館者数ですが、2月・3月は、ひなまつりに合わせた特別展の効果で200%前後の入り込みとなったとあります。私は、ふるさとガイドをしておりますが、案内をした際、休館日で残念でしたので、特別展の時だけでも開館することはできないでしょうか。多くの方が見えますので、一日限りでも数値的には良くなっていくと思います。

○小向孝子 遠野文化研究センター部長

3月の町家のひなまつりでは、私たちの配慮が足りなかったと反省しております。中心市街地にある施設ということ意識して、今回は、休館せずに開館する計画としております。

ただし、現在開催している特別展「魂のゆくえ」では、展示の入れ替えがあるため、7月31日の月末休館日は設けましたが、今後とも、特別展等の期間に配慮しながら開館等をしていきたいと思っております。

○菊池一晃 委員

「自然を愛し共生するまちづくり」ということで、浄化槽設置などの目標を立てて推進していますが、昔に比較して魚が減っています。そのような調査などを定期的に行い、実績等が出ているのであれば、お聞かせ願います。

○遊田啓悦 環境整備部長

環境課で定期的に河川の水質調査を行っており、概ね良好な状態ですが、それが、魚の再生につながっているとの結果は、きちんと出ておりません。稚魚の放流等により、魚の生息を復活させる取り組みは、漁協で行っております。水質については、概ね良好な状態ですが、若干真砂土の流出とかもあります。

引き続き、下水道の普及等により、水質の改善に努めていきたいと思っております。

○千葉純子 委員

35番の特定検診受診率と36番の指導率とに差があるのは、これは私たち医師会にも係わりがありますので発言させていただきます。市内の先生達で特定指導を実際やっている方は、いません。何人かの先生には誘っており、難しくない範囲で取り組むことができれば、受診率が、もう少し上がるかと思っております。

○荻野優 健康福祉部長

千葉医師会会長から発言がありましたが、我々は医師会、県立病院と一緒に連携しながら健康診断、皆さんの健康づくりに邁進していきたいと思っております。

ガン検診は、今年からスキップカードを発行するようにしております。ぜひ、皆さんも、ガン検診など、ぜひ1回は見てもらうよう紹介していただければと思います。

○菊池一勇 委員

遠野市では「永遠の日本のふるさと」を掲げ、日本のふるさとを意識して取り組まれていますが、この総合計画、指標では、それを全て意識した計画だということでしょうか、特に、どのような項目に力点をおいてこの計画を策定したのか、また、どのような構想をもっているのかをお聞きしたいと思います。

それは、私たちは、米や野菜等の業者と面談する機会がありますが、その際、遠野市は、永遠の日本のふるさとであると紹介しておりますが、認識度はかなり高いです。その時、日本のふるさとの原風景が、遠野市ですよねと言われますので、私は意識して取り組むべきだと考えておりますが、その点についてどのようなお考えかお尋ねします。

○菊池文正 経営企画部長

大変重要なお質問を頂きました。総合計画は、遠野市で最上位の計画であり、先程、ご意見

の中にもありました通り、標榜は永遠の日本のふるさと遠野であります。その具体的な政策として、基本構想・基本計画・実施計画の3つの手順を踏まえております。結論から言いますと、この大綱が全てとなります。大綱毎に事業を決めるにあたっては、最も力を入れなければならない事を中心に、それぞれの事業を組んでおり、それに係る具体的な数値で市民の皆さんにお示しすることが可能だということを前提に、まちづくり指標を設定しております。

先程のご質問のように、遠野が目指す方向については、ご意見の通りであります。多くの市外から来られる方々からは、イメージを損なわないような遠野市であってほしいという意見をたくさん頂きます。そこには、原風景であったり景観であったり、それから人間性ということも含まれております。ただし、我々が、ここで生活する上で、合わせて進めなければならないのは、産業振興であると思います。今、日本創成会議がセンセーショナルに公表しております、人口減少の課題も抱えております。産業振興による所得の喪失、あわせて少子化対策として、老いも若きも、この地に住んで良かったと実感できる形で、まちづくりをしなければならないと思っております。

そのために、残り26年、27年とありますが、最後の2年にかけて、より実現性の高い取り組みにしていかなければなりません。そして、次の総合計画の28年度以降の10年間、これから計画作りをしていくわけですが、特にこういった部分について力を注いでいくということを、皆さん市民と共に、計画作りを進めて行く時期に来ておりますので、よろしく願います。

○本田敏秋 遠野市長

今のご質問の中で、これからのまちづくのヒントになるかもしれませんが、この間、ベトナムの国家行政学院の教授と助教授さん方6人ほどが、ぜひ遠野に行きたいということで、来られました。その方々が、非常に遠野に感心を持ったのは、産業振興の部分の仕組み作りでした。木工団地に行って驚いていました。それから、6次産業化の取り組みについて、金融、企業がどのように絡んで行っているのか、そして、行政がどのようにそれに関わっているのかという質問が結構ありました。人口が3万人の遠野市であっても、木工団地のような地域資源を利活用する取り組み、あるいは、旧土淵中学校を利活用しての取り組みに関し、ものすごく感心と興味を持って、いろいろ質問が出されました。

菊池一勇委員から発言がありましたように、これからどうするのかとなった場合においては、人口減少社会には、当然立ち向かって行かなければなりません。基礎自治体として、どう立ち向かって行くかというシナリオを作らなければなりません。そのためには、産業をどのような形で活性化するのか。産業が活性化すれば、そこに雇用が生まれますので、人口減少といったものにも一つの歯止めをとる部分が、見えてくるのではないかと思っております。森林資源である木材、あるいは農林畜産業の部分にどのような付加価値を農商工連携の中で、どのように生み出していくかが、極めて大事であると思っております。それをきちんと打ち出すことにより、遠野の誇るべき文化、風土、自然といったものが、それを取り囲み、支えるというような一つの姿になって来るのではと思っております。そのような事をイメージしながら、核とすれば、地域経済の活性化という部分をどのように組み立てていくかという事が、次の大きな課題になると思っております。それをどう柱立てするかを、こういった実績の中から読み取っていかなければならないと思ったところです。

少し蛇足でございましたが、土日に、そのようなことがあったということ踏まえまして、ご報告申し上げます。

○臼井悦男 会長

ありがとうございました。発言する時間をたくさん頂きましたので、いろいろな角度からご意見をお願いします。

○菊地セツ子 委員

女性の参画率を上げることが、たくさん言われています。今までも、女性は出てくださいますと言われれば、努力して協力していると思うのですが、市では、今後どのような方法を取り入れて女性の参加を促そうとしているのかお聞きします。

○古川 憲 市民センター所長

女性の参画というのが、指標に入っておりますが、この指標では、各種審議会等の委員の皆さまの女性の参画率ということですので、市の職員が意識を持って女性を委員の中に入れていくことが必要ですし、市民の皆様にも、女性を登用するという意識を持って頂くためのPR活動を実施していきたいと思っております。

○臼井悦男 会長

指標 N0131、132 に書いてありますが、N0131 は、今のようなお話だと思うのですが、いろいろな活動に参加して見ますと、女性の皆さんが結構活躍していると思うことが多いのですが、N0132 の指標実績は上がってこない。これは、どのような地域活動を見てこの数値になっているのでしょうか。

○古川 憲 市民センター所長

指標 N0132 は、各町の地域づくり連絡協議会と地域教育協議会の中の女性の委員の数の推移を見ております。

○臼井悦男 会長

はい、わかりました。その他、ご意見ありませんか。

○佐々木國允 委員

一つは、この頃の市民の生活の状況とかをしっかりと掴んだ中で、これらの取り組みをすり合わせしていく事も大事ではないかと思えます。

もう一つは、何度かお話してきましたが、健康づくりについてもかなり工夫がされて、地場産品の農産物を使って月3回は、こういうふうな食事というふうなものを考えていただき、学校給食の部分でも工夫されており素晴らしいと思えますが、もう一つ踏み込んだ形で、健康づくりを進めてみる時期ではないかと思えます。

それは、今の医学や科学で説明できる部分があります。例えば、早寝早起きはなぜ良いのかなどを具体的に児童生徒に説明しながら、食事や生活のリズムなどを身につけてもらう。あるいは、それを行いながら父兄なり家族を巻き込み、そして地域全体で予防医学の視点からも健康づくりに、今以上に前進できるような取り組みを進めることができればと思えます。

いずれ、毎日、遠野テレビを見れば分かりますが、行事がたくさんあって、一生懸命行っていると思えますが、子育てをしながら働いているお父さん、お母さんが、どういう実態にあるのかを把握しながら、指標についても全体的な修正を加えながら、考えてみる必要があるかと思えます。

○菊池文正 経営企画部長

貴重なご意見ありがとうございます。先程、市長が申しあげました通り、今回お示したまちづくり指標の内容について、よく分析をする必要があると認識しております。これまでの状況、そして今回、そして残り2年間について、よく分析をして次につなげていくと。現状をよく把握した上で、次につなげていくということを痛感いたしました。

○三浦一 委員

指標 N07 と 8 は、木造住宅耐震診断戸数が、非常に低い値となっておりますが、これは、提案ですが、建設業協会とか建築士会は、住民の方々と接する機会が多いので、このような組織とも意見交換をすれば、この数値を高める取り組みが出てくるのではないかと思えます。

また、関連しますが、先ほど、菊池委員や市長からお話がありましたが、遠野らしさというところを議論した際に、建物や景観とかが重要になってくると思えますので、立場が違う方々が知恵を出し合うことで、良いものができると思えますので、ご検討いただければと思えます。

○遊田啓悦 環境整備部長

木造住宅耐震診断、改修戸数の件ですが、そのような関係機関ともっと連携しながらPRに

努めていきたいと思っております。

診断を行えば、次には改修となりますが、費用の助成的な部分を制度化しておりますので、一層PRしていきたいと思っておりますので、ご協力をお願いします。

○臼井悦男 会長

事前にチェックして感じていることとか、ぜひ伝えたい事をお持ちだと思いますが、いかがですか。

○菊池塔寿 委員

学校に関わる部分で、106番の学校給食食材に占める地場産物使用割合について、昨年食育センターができ、食材を含め給食の内容等に様々な努力を頂きながら推進されてきたことに、敬意を表したいと思います。今年は、特にも給食が美味しいと言う声が、たくさん出ております。遠野の地場産物を給食の中に取り入れることは、子供たちにとって、家庭の味を含めて、今この時期に植え付けることは大切なことだと思います。学校の給食指導の中でも、作ってくれた方々に感謝の意を込め、残さず頂くよう指導しております。

引き続き、遠野の地場産品、地場食材の活用をお願いしたいと思います。

○菊池幸市 子育て総合支援センター所長

食事の大切さについて、ご指導頂いていることに感謝申し上げます。地場産品の学校給食への使用については、春から秋にかけては豊富な産物がありますので、野菜を積極的に学校給食に用いておりますし、冬場にあっても味噌であるとか米などの遠野の食品をそのまま使用しております。極力、学校給食に地元の野菜等を使用することに加えて、日頃の献立の工夫をしております。先頃、遠野テレビを通じお知らせしたところですが、それと同様に各学校の1ヶ月分の献立表を送付する際に、単にメニューだけではなくて、食事の大切さについての周知にも更に取り組んで参ります。

学校の中でのご指導もさることながら、これは、どなたにも共通することですので推進して参りたいと思います。

○鳥屋部恵児 委員

目標値について、先程見直されるような話が出ておりましたが、87番に関連して92番です。観光客の入り込み数が、21年度60万人に対して中心市街地の観光施設の入り込み数が5万人ということで、だいたい10%切るくらいですが、目標値の設定が、平成23年度は、観光客の入り込み数62万人に対して、中心市街地の観光施設入り込み数が9万7千人、割合としておかしいと思いで、見直すべきと考えますがいかがでしょうか。

○鈴木惣喜 産業振興部長

やはり景気の動向に非常に左右されるのが、観光の入り込みだと思っております。東日本大震災以降、観光客の入り込みは減っております。本来は、それを前提にした数字も捉えなければならぬ現状にはあると思いますが、例えば宿泊の状況等を見れば、平成23年は15万人を超えるなど、かつてないくらいの宿泊者数になっておりますし、現段階でも9万台で推移しています。遠野市の年間の入り込み数は概ね60万台、その約1割が宿泊という状況が、この十数年続いておりますので、この中に掲げられている設定目標は、決して高いハードルではないと思っております。

○鳥屋部恵児 委員

10万人を超えたとか、近い数字までいったことはあるのでしょうか。

○鈴木惣喜 産業振興部長

10万まではいいのですが、博物館やおのおの物語の館がリニューアルなどしたため、入り込み数は高めの設定になっています。ただし、博物館がオープンした当初は、これに近い数値もありましたので、当時の良かった頃に、できるだけ近づけるような考え方になっておりま

す。SL銀河が運行しておりますので、これを柱に、できるだけ目標に近づけるような取り組みを観光協会、ふるさと公社、民間の皆さんらと協力しながら取り組んで参りたいと思います。

○鳥屋部恵児 委員

ありがとうございました。

○高宏美鈴 委員

17番の自主防災組織活動支援数ですが、90行政区中、未結成が4行政区あることに驚きました。地域は自分で守るべきだと思いますが、例えば、強制とかできないものでしょうか。

○谷地孝敏 消防長

例えば、宮守町の方であれば、例えば、2つの行政区で1つの防災組織を作っているところもありますので、その2つの行政区とも、それぞれ作っているという捉え方をしております。残り4つの部分は単独の行政区ですが、今、鋭意努力しており、3行政区からは、結成に向けて頑張りたいので相談にのってほしいとのことですので、結成に向けて頑張れるかなと思っております。

また、例えば強制的にとかのお話がありますが、行政区は、市の方で区長さんに求めてお願いするところですが、自主防災組織は、住民の盛り上がり大切です。

そして、これから力を入れなければならないのは、86の代表者で、自主防災組織連絡会を組織し、研修などを行っていますが、86の組織の中でも温度差があります。万全な体制の自主防災組織もありますし、なかなか自主的な活動ができていない団体もありますので、年30組織ほどお手伝いしながらレベルを高めようとしております。

○海老糸子 委員

69番の農産物直売所の売上額が、前年度と比べて横ばいだが、道路事情により大きく変化した直売所もあると記載されていますが、これは高速道路の関係ですか。また、どこの直売所のことですか。

○大里政純 農林畜産部長

売上が少し落ちているは、二つくらい要因があると思っています。一つは、原発事故の関係で、シイタケや野生きのこが出荷停止になっております。小友町では、特に野生きのこの売り上げが多かったのですが、今、販売ができないため売上の低下につながっているところがあります。もう一つは、宮守では、横断道の関係で交通の流れがかわったため、一時的に少し落ちましたが、売り上げ増加に頑張っている状況ですので、何か別な方策で目標値をクリアできるように、推進していきたいと考えております。

○工藤和信 PTA副会長

102番から105番の学力の偏差値や学習定着度状況調査で、概ね達成とありますが、家庭から見ると、学習は、だいぶ定着してきていると思いますが、まだ内容が伴っていないのかなと感じはしているところです。しかし、遠野は永遠に日本のふるさとということですので、勉強だけではなく、地域への貢献度とか、郷土芸能への取り組み方などの指標を検討しても良いのではと感じました。

○臼井悦男 会長

ご意見としてお聞きしました。概ね1時間という予定の時間になりましたので、意見交換は以上とさせていただきます。よろしいですか。

(はいとの意見あり)。

それでは、後期基本計画まちづくり指標の平成25年度実績につきましては、ご提案いただいた原案通りということにしてよろしいでしょうか。

(はいとの意見あり)。

では、各委員から様々な発言がありましたので、それぞれの対応については、事務局でよろ

しく願います。

それでは、協議事項2の遠野市新エネルギービジョンの策定についての説明をお願いします。

○佐藤浩一 企画・秘書広報担当課長

遠野市新エネルギービジョン策定の進捗状況について説明いたします。背景につきましては、前回の審議会の時に素案の部分で説明しておりまして、変わりありませんので省略させていただきます。

(別添資料により説明、10分)

今後のスケジュールは記載のとおりですが、総合計画審議会に最終案を協議すると記載しておりますが、会長と協議をし、会議を開催するのか、または文書を送付して意見を求めるかたちにするのかは、今後、つめたいと思います。

本日は、この五つのプロジェクトに対する意見、他にもリーディングプロジェクトとして各委員さんから、案等をお示ししていただければと思いますし、エネルギー施策全体に対する意見・要望等を中心に協議をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○本田敏秋 遠野市長

少し付け加えさせていただきます。議会でもビジョンを早急にまとめて遠野のエネルギー問題を、身の丈の中で考えるということをしちんと示したいという話はしております。

我々が予想した以上に、特に遠野市にとっては、真正面から向き合わなければならないのがメガソーラーです。大きい規模から小さい規模まで、いろいろな話があります。この間は、1兆円規模のドイツの資本が入るといった話が舞い込んでまいりました。担当には、慎重に検討するよう指示しております。どこまで具体性があるのか、パネルを設置したけれどもメリットはあるのか、送電ルートはどうするのかなど。遠野は景観という非常に大切なものがある。そこに高圧線があつては、大事な景観が壊れてしまう。地下埋設と言っても大変なコストがかかる。そのような事も考えながら対応させておりますが、今、あちらこちらで牧場への設置の話があります。牧場であれば、造成しなくて良いし、遮るものが無いので、パネルを設置しやすいと。そういったこともありソーラーを含めて、木質バイオ、小規模水力、風力発電など、いろんな話がきておりますので、担当にはビジョン策定については、少し急がなければならないと話をしておりますので、皆さまからもそのような形で、また、これからのパブリックコメントをすることとしておりますので、ぜひ、委員という立場、それから市民という立場も踏まえて、このビジョン作りに一つ、お知恵をお借りしたいと思っております。また、スピードを上げたいと考えておりますことを私の方から一言付け加えさせていただきます。

○臼井悦男 会長

ありがとうございました。是非新鮮なご意見をお願いします。

○千葉和 委員

これに関して、パブリックコメントを行うとのことですが、関係団体とかのワーキンググループの様なものを前に作るという話があったと思うのですが、ぜひ、そういうことを行ってほしいと思います。

ビジョンを策定する時に、リーディングプロジェクトも、決定してしまうということなのかどうか。リーディングプロジェクトでは、実施のスケジュールをどう考えているのか。いつからいつまでとか。

意見として、私たちの遠野エコネットでは、今、間伐材の有効利用ということで薪に使う活動をしています。県内でも西和賀町などでは、50%薪ストーブ納入という、県内でもいろいろなところで薪ストーブ設置に向けた補助金を出しているところがありますので、補助金が良いのかどうかは別ですが、これらは公共の施設と事業所ということですので、ぜひ、個別の住宅でも行ってほしいと思います。

あと、メガソーラーに関しては、市長も危惧しておりましたが、遠野では、むしろ小規模分散型の方がよいと思います。ソーラーは良いと思うのですが、巨大な資本が入り買い取り制度が破綻した時に、それだけが残るとか、冬季間には、いろいろ問題が起きると思うので、大規

模なものを作るのは、どうかと思います。風力発電でも、冬季間に風車を取り替えるとか、出ているので、まだ始まったばかりで、不具合とかも起きているのかなと思いますので、景観等も配慮しながら慎重に進めてほしいと思います。

○佐藤浩一 企画・秘書広報担当課長

1つ目のパブリックコメントですが、ホームページ等を通じてとか、意見等の聴取等を行いたいと思っておりますが、11月までに全てを終わらせるとなった場合、ワーキンググループを開催するのは難しいと考えておりました。

リーディングプロジェクトに関しては、11月下旬までに、ある程度の部分で確定したいのは、来年度から取り組めるものは取り組んでいきたい。ですから、予算化するためには、11月ぐらゐまでに決定させなければならないという部分があります。今のところは、これらのリーディングプロジェクトを早いものは来年度から、できないものは徐々にということ考えていきたいと思ひます。

3つ目の薪ストーブ等の補助につきましては、これは、関係課含めて内部で検討させて頂ければと思ひます。

4つ目のメガソーラーに関しましては、景観的なことも考えれば、もし行うとしても場所の選定とか、気を付けていかなければなりません。合わせて今回、他の九州の由布とかで条例等作っているところもあります。規制は難しいですが、届出制とか、その辺をきちんと整備し、市の方としても把握していきたいと考えております。私たちが知らないところで進み、先程買い取り制度が破綻した関係で事業がストップして、その物だけが残るということだけは、絶対に避けなければならないとの話でしたが、私たちもその通りだと思っておりますので、条例等を整備しながら進めていきたいと思っております。

○千葉和 委員

11月というのは、来年度の予算があるからということで納得しました。ビジョンを策定することは急いで良いと思ひますが、ビジョンは目指す方向で、そこには長期的、短期的な行動計画があると思うのですが、行動計画は、パブリックコメントだけでは難しいと思ひますので、ぜひ、チームみたいなものを作っただけでないか。それは11月までに、どうこうではなく、新エネルギーというものを上手く機能させていくためという意味で、ぜひ検討していただきたいと思ひます。

今、山の方では松枯れがすごく問題になっており、宮守にかなり入っています。大出の早池峰神社でも、この前一本切ったので、附馬牛が最北でも松が枯れているという事態になっています。この松枯れの部分も、薬剤処理も間に合わないのて、松くい防止も早くしなければいけないので、何か新しい発想で、エネルギー利用で考えて頂きたいと思っております。

熱利用の部分で、昔ながらの住宅がかなり多く、電気などのエネルギーを入れても、住宅が熱を逃がす住宅だと意味がないので、リフォーム、高気密あるいは断熱化していくことも同時に検討してほしいと思ひます。

○菊池文正 経営企画部長

ワーキンググループに関しましては、今後に向けて大変重要な計画ですので、遠野市総合計画審議会の委員の方々の中から、数人絞り込んでお願いできないかとイメージしたところですが、ただし、これについては、臼井会長と相談させて頂きたいと思ひます。その上でこれについては、検討させて頂きたいと思ひます。

松枯れ病は、大変重要な課題です。これについては、今の状況を認識しておりますので、検討を加えさせて頂きたいと思ひます。

個人のソーラーの導入については、今回、総花的なリーディングであってはいけないだろうということで、案として五つお示したところですが、やはり個人の住宅への導入については、内部ですでに上がっておりますので、これについては、今後このビジョンと合わせて具体的な見解については検討していく必要があるだろうと考えております。

○佐々木栄洋 委員

2 ページに書かれています利用可能量の把握というところに記載されているエネルギーの種類がありますが、遠野の地域特性を考えれば、寒暖の差がかなりありますので、温度差エネルギーとか、雪氷のエネルギーとかも十分可能性があると思います。

○佐藤浩一 企画・秘書広報担当課長

その辺も含めて検討してまいりたいと思います。

○佐々木國允 委員

先程、市長さんからもご説明頂きましたが、これを進めていく場合に、問題点も無いわけではないということで、今、買い取りの問題とか2、3出ております。そのような部分も一緒に計画の中で進めることが、大事であると考えます。

もう一つは、千葉さんからも出ましたが、例えば、自然エネルギーで木材を使っていく場合に、造林していくことも当然一緒に行わなければならない事業であると思いますが、その時に、シカとかクマがいっぱい出ている状況の中で、何を造林していくかなど環境面のことも併せて検討する必要があると思います。

○佐藤浩一 企画・秘書広報担当課長

貴重な意見だと思えます。その辺も踏まえた上でビジョン策定を進めていきたいと思えます。

○臼井悦男 会長

そういう意味では、環境を主に考える委員会等ありますね。そういう方々と相談しながらということになるかもしれません。

○菊池一勇 委員

堆肥のことも出ていますが、遠野市の場合は、堆肥のことは考えなくてもよいと思えます。

遠野には、堆肥センターがありますので、たい肥の利用を促進させる方法を検討した方がよいと思えます。遠野は、堆肥は農地に返す、耕畜連携で進めた方がよいと思えます。

○大里政純 農林畜産部長

まずは、農地に還元することを基本にしたいと思っております。これまでも耕畜連携ということで、堆肥化して農地に還元していますが、今、大規模な肥育農場が市内にありますし、キャトルセンターができて、家畜の数と農地の面積を比較し、少し家畜の数の方が多くなると、どうしても家畜の排泄物が少し多めになってしまうということがあります。基本的には農地還元ということを買っていきたくて思っております。

○臼井悦男 会長

大きな構想策定にあたっての考え方というところに意見をいただきました。

これから案が示され、パブリックコメントということですので、我々も市民の一人として、また、何人かで中心的に議論できるメンバーについては相談させて欲しいとのことでしたので、これについては協議しながら進めてまいりたいと思えます。

それではよろしいですか。

(よいとの意見あり)。

たくさんの意見がありました。この意見を踏まえまして、よろしくお願ひしたいと思えます。

7 その他

○臼井悦男 会長

それでは、項目を終えまして、その他に入ります。

○佐藤浩一 企画・秘書広報担当課長

先程、11月にエネルギービジョンの策定の時に、委員の皆さまにお示しするというので説明しましたが、その内容については、臼井会長とも相談しながらどのような形で進めていくかを決定した上で皆さんに連絡したいと思います。

なお、3月の時に総合計画で皆さまにお集まり頂くことになると思いますので、その時は、前もって連絡いたしますので、よろしくお願いします。

○臼井悦男 会長

それでは以上で、他に何かございますか。無いようですので、進行役をお返しします。ありがとうございました。

○菊池文正 経営企画部長

臼井会長、大変ありがとうございました。ここで市長からご挨拶を申し上げます。

○本田敏秋 遠野市長

2時間に渡りまして、委員の皆さまから、大変貴重なご意見頂きました。この作業は、次の28年度を初年度とする新たな遠野の市総合計画に、当然のことながら反映される作業ですので、一つ一つが貴重なご意見だったと受け賜ったところです。

昨日、矢巾の消防学校で、2年に1回の操法大会が、県下の33の消防団からそれぞれ参加した中で、第9分団第2部の上宮守地区が4位、松崎光興寺地区の第5分団第2部が7位と好成績を収めました。その中で大変嬉しい話を団長から、昨日お聞きしました。遠野のラッパ隊が、一糸乱れぬドリル演奏、それを3千人近い応援団の前で、大変素晴らしい演奏を披露したと。全国一と言っても良いぐらいのラッパ隊のファンファーレであったと。そして、ラッパ隊の関係者の話を聞いたならば、あれだけの観客の前であったため、緊張して足がつってしまったという話を聞き、3万人のこの遠野市消防団の底力というものが、操法に、そしてラッパ隊によって示されて、すごいインパクトを消防関係者に遠野を印象付けたという話を聞きましたので、皆さまにも、その報告をしたいと思います。では、ラッパ隊の皆さまが、単なる昨日、今日であれだけのレベルになったかと言えば、毎日仕事をしながら大変な練習を行っている中で、そのような底力を示していただいたわけですので、大変嬉しくその報告を聞きましたので、その事も付け加えさせていただきます。

このような作業を皆さまと共に一緒に行いながら、27年度を最終年度とする総合計画をきちんと総括して、次のステップにつなげたいと改めて思っているところがございますので、ご協力をお願いいたしまして、しめの挨拶に代えさせていただきます。大変ありがとうございました。

8 閉会

○菊池文正 経営企画部長

以上をもちまして、平成26年度第2回遠野市総合計画審議会を終了させていただきます。大変ご苦労様でした。